

平成28年度第4回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：田舎とつながる、働く、暮らす
- 2 日時：平成28年7月20日（水）14：00～
- 3 場所：アートインク津山（津山市田町）
- 4 参加者：中山間地域等で若者や移住者の視点や発想を生かして起業されている方々
6名

5 知事挨拶

戦後、都会に大きい建物を建てて都市化が進み、同時に地方では過疎が進んだが、最近の流れでは、センスのいい人が自分の意志で、地方に移住し、仲間を作りながら楽しそうに生活するようになった。もっと日本はバランス良く住むべきだ。

今回はどういうきっかけでそれぞれの地域に繋がることになったのか等について紹介してもらい、どうすればバランスの良い住み方ができるのか、皆さんのような方が増えるのか参考にしたい。

6 発言内容等

【地域に繋がるきっかけなど】

- ・地域の企業の魅力等を発信し、クラウドファンディングでの支援等を行うレプタイトル株式会社を起業して4期目となる。私自身Uターンだが、同級生が地方には仕事がないと言って帰ってこない一方で、地方の社長はいい人材がいらないと言っている中で、県北で10年間に1000人の雇用を生み出すことを目標とした。
- ・西栗倉村で食用油の製造を行っている。森の学校で起業の準備をし、津山にある神谷油脂製油工業所の師匠から搾油法を学んだ。事業の性格上、農業と結びつきが強い。
- ・3年前、大阪から移住し高梁市吹屋で、家族でゲストハウスを運営している。大阪や東京で暮らしてみて、①人のつながりが少ない、②好きなことをしている人が少ないと感じた。この2点を解決する場所は昔の「村」だと思い、場所を探していると、みんなから岡山がいいよと言われた。今はこのことを伝えたいので、ゲストハウスをしている。
- ・真庭市落合でケータリングとフードコンサルタントを行っている。元々都会でサラリーマンをしていたが、体の調子を壊し、地元に戻ってきた。運転免許がないので、どこにも就職先が無く、それなら自分で仕事を作ってやろうということで、店を持たず、フライパン1つで出来ることをやっている。
- ・東京でIT会社を経営しているが、東日本大震災の時に計画停電等に対応するため、徳島県神山町にサテライトオフィスを設置したところ、地方でも東京の仕事ができた。それだけではなく、神山町で起こったことは、適切な人に出会うことができる、それには集まれる「場」「理由」が重要だと感じた。

・津山でデザイン会社をしており、妻の実家にIターンしてきた。移住する前は、建築会社で、ビルを作ったり都市計画を立てたりしてきた。30歳になる頃にビルの中で仕事をしていると日が暮れるのもわからないのはおかしいと思った。

これからは建物を作るだけではない建築家もあるのではと思います、アートインク津山の改装も、過去を背負って未来を描くというシンボルとしてデザインしている。

・企業に勤めていたときに、5年後に会社が無くなると思って仕事をするのと、そうでないのは異なると思った。「地方で仕事がない」という状況は、①仕事があるのに見えていない、②就職先となる会社がないということ。売る物もなく、とりあえず地方で雇用を作るというビジョンはあったけれども、起業して半年間は売り上げ0だった。

・元々国連の職員になりたかったが、渡航する際に申込をした大手旅行会社が倒産し、夢破れたというよりは、都会にある大きな会社でもつぶれることがあると気づいたため、起業したいと思った。起業について調べようなどを探していたところ、森の学校にインターンシップをし、油に出会ったが、西栗倉村で店舗を構えてもなかなか購入してもらえないだろうし、インターネット販売をするといっても、いっぱいある中でどのように目立てばいいのか悩んでいたところ、人が津山の製油所の情報を持ってきてくれた。今では師匠に教えられるものだけだと足りなくなって自分で工房を開いているが、自分で好きなものを見つけてやればなんとかなるものだと思っている。

・元々サラリーマンで、飲食店の経験もないし、人脈もない。その中でやれてきたのには3つのことがある。

① 人がいい話を持ってきてくれた

② 夢を語ると、共感し、実際動いてくれる（都会では共感するところまで）

③ 岡山県主催の地域づくりリーダー養成講座「ももたろう未来塾」の存在

・食うのに困って仕方なく起業したが、いろんな人が助けてくれた。「新しき民」という映画のロケで、スタッフに対して1ヶ月間炊き出しのボランティアをするときに、1人では無理なので、料理教室の生徒に声をかけて、60人と一緒にやった。その時に求めている人と求められている人を、ゴハンを通じてヒトを繋ぐという会社の理念を見つけることが出来た。

・地方で地元の人と話をしていると、思い込んでいた知識よりも現場では違うことが多い。その仕組みを変えたり、人との出会いの中で、手を組んで進めていく、新しい組み合わせを試してみるなどの中で、木のボードゲームを作り、起業した。

・ただ家を建てたい訳では無く、「建てない建築家」をやりたいと思っていた。そのきっかけは、吉備中央町の廃校跡地を活用して、鞆の工房をデザインしたときだが、昭和のレトロ感を重視する企業理念と相まって、過去のストーリーを新しいものに変化するものとなった。

【行政や外部からの支援策】

・起業することを、親の世代から見ると安定しないといった否定的なとらえ方をされるが、起業してみようという人をカッコいいよねという雰囲気作りが大切だと思う。今は

土作りの状況で、子供たち、次の世代は違う感覚を持って起業するようになると思う。それまでに田舎の選択肢にスポットをあてて、見える化することが、具体的な支援よりもいいのかなと思う。

- ・岡山県産の原材料がない。農家に作付けをお願いしても、獣害があつて難しい。これを解決するのは、お金ではなく、人手だと思っていて、血縁が無くても、都会や地域の若者が手伝うシステムがあれば変わるのではないか。

- ・建てない建築を推進してほしい。空き家や空き施設はたくさんあり、志高い若者とマッチングしてほしい。古民家を借りてBARをするイベントなどで地域を盛り上げようとしており、岡山市の河原邸で開催しようとしていたが、県と市の取り決めで、利益を出すイベントが開催できないことになっているようだ。可能であれば開催できるように柔軟にしていきたい。

- ・自分には実家があったので、食と住の保証があつたのが大きかった。失敗しても親代わりのように生活保証がある場があればいい。

- ・行政の場合、担当が人事異動で、2年ぐらいで替わってしまう。可能であればもう少し長く同じ人を配置してほしい。

- ・地域の課題、ニーズを見える化し、行政、民間だれもが共有し、トークできる場がほしい。そこで論理的に議論し、調査、研究ができれば。そうでないと「勘」で地域づくりをすることになる。

【優秀な人にどうやって岡山に来てもらうか】

- ・レプタイル株式会社のスタッフ自体がUターンで帰ってきた人だ。地元に戻ってこいよと言うことも必要かもしれないが、それよりもそれぞれがポジティブに移動するようにしたほうがいいと思う。そのためには、地域で面白そう、楽しそうにしていることを発信することだと思ふ。簡単なのは、企業の魅力的なホームページを作ることだ。

- ・求人した際に、住宅手当、通勤手当はありますかという質問があつた。田舎の実情自体が都会の人に届いていない。田舎で生活するのに、これくらいお金があればいいといった田舎の生活を発信するものがあればいい。

- ・今はフェイスブックがいいのではないか。感度のいい人はすぐに来る。

- ・新卒2名が、田舎でしかできないソーシャルな仕事をしたいということで来たが、ドラッグストアはあるとかコンビニとかあるかといったことを聞いてきた。田舎には便利さはなく、そのギャップをどう埋めるかが課題だ。

- ・会社では、副業を勧めている。1つの会社で1つの機能をするだけでなく、1人がいろんな地域でいろんな仕事をやっていったらいいのではないか。

- ・一緒に働く人を探すのに、ポジティブな人と出会いたいと思っている。何かがいやだから、田舎に来る人は続かないと思う。そのようなポジティブな人に出会える、ゆるくコミュニティをつくるようなカジュアルな場があればいい。

【その他】

・当社では、16時上がりにしており、残業せずに早く帰れと言っている。従業員の半分は女性で、子供の具合が悪いから休むということになると、従業員の間で不平不満がたまり変な雰囲気になるので、子供を連れてきていいと言っている。

子供が職場にいて、親が仕事を見せることは、将来の仕事をイメージさせることができるので、重要だ。小学生のプログラミング教室をやっているのだが、起業家の横でやるのはシブいと思う。次の世代が起業するトリガーを仕掛けている。

・子供とふれあえる場がほしいとっていて、工場見学のような感じで油はこのようなものということ、食育を通して、大人が仕事をしている姿を見せたい。

・衣食住エネルギー等、地域内で完結するようなコミュニティを作りたい。地域の課題を行政に言うのではなく、僕が受けて、助け合いながらまかなえるような。

また、東京と大阪で、みんなでチームを組んで高梁の良さを伝えるイベントを行いたい。

・廃校を活用して、みんなが料理をし、1人1人がシェフであり、ゲストであるセントラルキッチン、シェアキッチン、言うなれば「食べる、楽しむ学校」を計画している。

・仕事を通じて創業者の助言をしているが、個人とか民間とか1人1人の喜び幸せをサポートし、1つ1つの点をうまく面にするように繋げていきたいと思っている。

7 知事まとめ

・不便さを、都会の人から見ると宝の山に見えている発想は正しいと思う。不便さをいやがる人を無理に来てもらうとか、何かに逃げている人に来てもらうよりうまくいきやすい。ワカモノ・ヨソモノが地域に来てくれるだけですごく元気になることがある。皆さんがわいわい楽しくやることによって、既存と違う価値観のネットワーク、触媒になるかもしれない。そのようなことを応援していきたい。